
220

アズマホイ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

220

【コード】

N6965H

【作者名】

アズマホイ

【あらすじ】

性を媒介とした引きこもりからの回復。

(前書き)

書き終わったときが夜中の2時20分だからこのタイトルです。

どんなものでも書かれた時点ではフィクションである。書くこと
によって、文字に写された時点で物事は文字へと写される。

そして読者の心のなかで生かされたときにのみ、文章はまた生き始
める。

すべてを描いたという感覚、それを文字にしたと信じたときがあっ
た。

それはあまりに過剰であったので、人に見せる前に破り捨てた。

いや、人は読もうとはしなかった。

似ているとしたらアルトー、アルトーの仏語にそれは似ていた。

ぼくは詩境を開いたが、それをすぐに閉じた。

浅井さんの微笑を今でも思い出す。

これは読んではいけない、という顔だった。

失われた詩は確かに一度は書かれた。しかし、それが完成品である
とは今は思わない。

それは一つの具体性ではあったが、それが全てというにはあまりに
短かった。

最初それは擬音であった。

そしてそれは悲歌となったのである。

恋人が見つからぬ時、人は狂気に似たものになると、ある精神科医
は書いていた。

ぼくはまだ若い人の便宜のために、ぼくの悲歌について書こう。
ぼくにはある時期、それが全てだったのだ。

人は無邪気に道を歩く。

ぼくはずんぐりむっくりした冬のジャージで、夜中、自動販売機まで歩いてきた。

誰とも出会わない保証のなかで、コーラだけ飲みたかった。

ぼくの実在は喉元を過ぎる炭酸でしかなかった。

そのときだけぼくは存在したと言える。

ぼくは性というものを失っていた。

伸び放題の髪や髭、門の外に何があり、誰がいるのか関知しなかった。

ぼくは抽象的な否定性そのものとして生きたのだ。

パリにヴェスナという妹分がいた。

連れ歩いて本屋などに行っていた。

彼女のことを思い出した暗い部屋で、ぼくは彼女ですら欲望できることに苦しみを感じた。

それが治癒だったのかもしれない。

ぼくは東京女子医大の先生に会いに行き、ぼくを診てくれた女の先生について軽口を叩いたとき、先生はぼくがもう治った、と言った。

少なくともぼくは性を取り戻していた。

「今日が何曜日か分かりますか？」

「それは何線で行くんでしたっけ？」

一つ、一つ、かつてぼくにあったものを、先生は質問した。ぼくは答える度に、頭痛とともにこの世に帰ってきたのだ。

そういった問答をいろんな人とした。

ぼくが全て否定したものを、少しづついろんな人と話すなかで取り戻していった。

永遠の回復過程に終わりはなくても、ぼくは立って歩ける人間にはなった。

軽口を叩けるまで回復したとき、軽口もまた悪であり死の陰があったとき、その時々でぼくは語り、酒を飲んだ。

それは既に闇ではなかった、そしてそれはもつと深い闇だったので、あらゆる光に照らされていた。

ぼくが自分を取り戻した頃、ヴェスナの国はなくなっていた。

ノートルダムに怒りをぶつけて歩いた頃、ユーゴスラヴィアという国はまだあったのだ。

これは彼女への手紙である。

闇のなかで一度だけ彼女を欲望したことによって、立ち直ったぼくの懺悔である。

それが罪であるから、ぼくはあらゆる罪を今生きているのである。

(後書き)

もっと細かく書けるけど、それではおもしろくないかもしれません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6965h/>

220

2010年10月11日06時10分発行